

槍ヶ岳・飛騨沢スキー

2008. 3. 15～16

メンバー:L菊地、他 4 名

3月15日(晴れ)

前日から降り続いた雨は上がり、春の様な陽気の中、新穂高温泉を出発する。林道の除雪は僅かで直ぐスキーを履けるが、雪はたっぷり水を吸い、予想通りあちこち真新しいデブリが出ている。

白出付近から河原を行き、滝谷避難小屋の少し手前で休んでいると、対岸の斜面で点発生雪崩が起きる。最初は谷を挟んでいた為、ここまでは来ないだろうと思っていたが、益々勢いを増しこれはやばい！一目散に高い場所に逃げる。結局、雪面に置いていたスキー1組が少し埋まっただけで済んだが、谷を埋め尽くし更に斜面を駆け上がってくる姿はとても恐ろしいものだった。



その後、雪崩そうな場所は見張りをつけ慎重に通過する。槍平に程近い、南沢出合はいつも大デブリランドが出来ているが、今日は小さなデ



ブリだけで綺麗だ。意を決し早足で通過する。安全地帯に辿り着き、もしかしたら雪崩が見れるかもと、暫くウオッチングするが、上方で小さなものが何度か発生するが、途中で止まってしまう。

無事に槍平小屋に着き皆ホットする。ポカポカ陽気でのんびり時間を過ごす。今日は我々だけだったが、

小屋には正月に雪崩事故に遭われた方達の物と思われる荷物が置かれていた。

3月16日(晴れ後曇り)

明るくなってから小屋を出る。それ程寒く感じないが、夜の放射冷却の為か、辺り一面カリカリのバーンと化している。このままカリカリが稜線まで続

いたら・・・と思ったが、2300m 辺りからはクラストに変わり乗越付近は 14 日雪だったのかパックパウダーだった。飛驒乗越に着くと風は強いが、まだ沢に日は注しておらず、デブリも無く雪面は綺麗なものだ。思わず 1 本滑りたくなる衝動を抑え、スキーをデポして槍ヶ岳山頂に向かう。槍沢を覗くとこち



からも魅力的なスロープが広がる。山頂からの展望を楽しみ乗越に戻る。いつの間にやら頭上には雲が広がり、時折小雪も舞う。段々ガスも垂れ込めて来たところで、いよいよお楽しみの3000mから滑走の時間だ。最初のうちはパック気味でスキーは全く潜らないものの、そこそこ楽しい雪だったが、段々降りるにつれクラストから、更にアイスバーンと変わり、忍耐のスキーで槍平に戻る。荷物をまとめ下山するが、空は再び青空となり暑くなり、行きに無かったデブリがちらほら見受けられ、林道下部ま

で緊張が続き度重なる角ばったデブリの通過とアイスバーンにかなり体力を消耗した。

コースタイム

3月15日

新穂高温泉8:15～穂高避難小屋
9:20・9:35～白出小屋10:20・10:30～滝谷小屋付近12:10・12:30～南沢付近14:15・14:30・槍平14:40

3月16日

槍平5:50～飛驒乗越8:40・9:05
～槍ヶ岳山頂9:50・10:05～
飛驒乗越11:00・11:10～槍平11:45・12:25～白出14:30・14:45～新穂高温泉15:35

地形図：槍ヶ岳、笠ヶ岳、穂高岳

